

県民の森 植物紹介 ④1

ー カラマツ (マツ科) ー



日本に自生する針葉樹のなかで、唯一落葉します。晩秋の黄葉はたいへん美しく、陽に当たると黄金色に輝きます。県民の森で、一番遅くまで黄葉が楽しめる木です。日本固有種。自然分布は本州中部に限られますが、1950年代後半から国の政策として進められた拡大造林で、カラマツが成長が早いことから、北海道や東北において主要な造林樹種として植林され、岩手県でも盛んに植林されました。

花は初夏。新葉と一緒に咲きます。雌雄同株。雌花は上向きに直立し薄緑色に鮮やかなピンクが混ざった色の球花で、とても可愛らしいです。雄花は、黄白色で下向きに咲くので、見分けがつけます。また、カラマツの松ぼっくりは、小さいバラの花のようで、クラフト材料として大変人気があります。

材としては、「ヤニ」と呼ばれる抽出成分が豊富に含まれるため、材の表面が脂分で保護され、艶やかに仕上がります。防腐・防虫効果もあり、時間が経つほど飴色に経年変化して味が出てきます。そして、冷涼で降雪の多い厳しい環境に耐えられるように進化してきたため、硬くて粘り強い材質となっています。一方で、ねじれながら成長するという特徴もありますが、近年は乾燥や製材の方法によってそれらを克服する技術が発達し、集成材や合板、家具材として利用の幅が広がり、需要が高まっています。カラマツの強度や粘りなどの特徴を生かして、大断面集成材を作ることで、木造で大型建築物を作ることも可能になっています。

森林ふれあい学習館では、柱や内壁、階段に岩手県産材が使用されており、カラマツ材のぬくもりを体感できます。また、松ぼっくりを丁寧に乾燥させて、工作体験材料として提供していますので、作りながら楽しむこともできます。



雄花 2020年4月11日



雌花 2020年4月30日



新緑 2020年5月13日



紅葉 2019年11月10日



松ぼっくり 2019年11月26日



霧氷 2020年3月2日